

【特別支援学校のセンター的機能】



～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者の悩みを聞いたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

専門アドバイザーの仕事を紹介します



ある小学校の3年生のクラスを参観したときのことで、20分休みに外に遊びに行かず、教室の窓のところで校庭を眺めている児童（Aさん）がいました。

授業中には活発に発言をしていた理解力のある児童だったので、友達と遊びに行かないことを不思議に思い、「遊びに行かないの？」と聞いてみました。首を横に振るので、しばらくその児童のそばで一緒に外を見ていました。すると、「お母さんは私のこと好きじゃないんだ」と言い始めました。理由を聞くと、「家に帰って宿題や家庭学習をしているのに、お母さんは酔っぱらってテレビを見て大声で笑っている。いつも私には、頑張れ、頑張れとばかり言っている」と不満を口に出していました。

Aさんのことが心配になり、担任に頼んで、母親と面談をしました。

持参してもらった一人娘のAさんの写真を見ながら、母親に思い出のエピソードを話してもらいました。生まれたばかりのAさんの写真を見ながら、「欲しくて欲しくてやっと生まれた子供だったこと」、熱を出して寝ているAさんの写真を見ながら「体が弱くていつも熱を出す子どもだったこと、熱が出てもすり下ろしたリンゴなら食べたこと、具合が悪くなると母親にべったりだったこと」、初めて行ったプールの写真を見ながら、「浮き輪をしても怖くて、浮き輪をしたまま抱っこしてプールに入ったこと」、満面の笑みを浮かべてすいかを食べている写真を見ながら「『ママ、大好き』が口癖の子どもだったこと」、母親からはAさんを愛する気持ちがあふれてきました。

そこで、母親に「勉強ができる、できないは関係ありません。頑張っても、頑張らなくてもAさんはたった一人の娘さんですよ。この世にたった一人しかいないあなたのお子さんです。」と伝えたところ、「子どもの成績が良いと自分が偉い

ような気がしてしまったのかもしれませんが」と母親なりに気づいてくれました。

そして、2つのことを約束してもらいました。

- ①「お母さんの子どもでいてくれて、ありがとう」という気持ちを表すために、「おはよう」と「おやすみ」、「おかえり」を最高の笑顔で言うこと。
- ②ご飯を食べながら「Aちゃんと一緒にご飯を食べられてよかった。Aちゃんがいてよかった」と笑顔で言うこと。食事の時だけでなく、買い物の時でも、寝るときでも、いつでもよいから、1日に3回は言うこと。

Aさんは小学校3年生です。母親のちょっとした変化で、みるみる明るくなり、1か月後の訪問では20分休みに元気に校庭で遊ぶ姿が見られました。

大事なことは子どもが存在していること自体を認めることです。そして、その気持ちをきちんと言葉や態度で示すことです。本当に大切な人を幸せにするために必要なのは少しの努力です。

相談依頼の件数（外部支援）H30.4.1～10.30まで

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	178件	173件	39件	2件	9件	401件

（その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼）

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校
担当：専門アドバイザー 尾岸 純子
電話：027-268-6111
FAX：027-268-6113
メール：shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp